FREE

著者名	クリス・アンダーソン	発行年	2009年
出版社名	NHK出版	ページ数	313ページ
値段	1,890円	ISBN	978-4140814048
コメント	今期の幕開けは新時代を予感させるこの本から。 アトムからビットへ。形ある物体から形なき情報へ。人々が求める〈財〉の性質が劇的に変わったことで、いったいどんな巨大な地すべり現象が発生しつつあるのか？ もう商品の陳列棚も輸送コストも要らなくなった。コスト・ゼロで財を提供することが可能になった。そうやって大きなタガがぱかんとはずれた時、人間という賢いナマケモノは、まことにあざやかな交換経済の新システムを考案してみせる。 グーグルしかり、アマゾンしかり、ウィキペディアしかり。 世界はこうやって日々新しくなってゆく。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
nao ☆☆☆	知らない話もけっこうあったので勉強になった。 フリーの仕組みを整理していて、わかりやすかった。			
	1-49	49P (30分)		2010/08/18 13:21:36
かーたか ☆☆	なんでタダでやってけるのだろかとネット上の数あるサービスについて考えたことはあるし、その仕組みを想像したことも幾度とある。 その正解が知れたのは良かったことだと思う。			
	1-98	98P (100分)		2010/08/18 12:24:59
7boys ☆☆	知ってる話ばっかり。 残念。			
	all	313P (100分)		2010/08/16 14:03:02
akilu ☆☆☆☆	テレビで紹介されていて手にとってみた。 やっぱりこういう仕組みで0円が実施できるのか、と改めて勉強。 コラムは目次を見ただけでもどれを読もうかとワクワク☆ 集客と収益か…消費者は本当に得をしているのかな？； 突き詰めるとだまされているとか、じゃなければいいけど			
	コラム3つ	4P (20分)	p106	2010/08/14 13:46:41

まー ☆☆☆☆	今まで自分に無かった新しい考え方が生まれた。 ちょっと当たり前じゃない？って部分もあったが、読んでみて損はないと思う。			
	1-313	313P (200分)		2010/08/06 15:09:09

みぃたん ☆☆☆☆	新しい考えが自分の中に入ってきた。 知ってたけど、よく知らなかったFREEなものの仕組みが、頭の中で整理されました。 知らなかったシステムもありました。 知ってよかった。わくわくしました。			
	1-50	50P (90分)	～30ページ	2010/07/21 10:53:29

ushiushi ☆☆☆☆☆	これは新しい考えだ！何かに使えるかもしれない！ ・・・・と思ったら結構知れ渡ってるみたいですね。 時代に遅れなくてよかった。			
	全部	313P (333分)		2010/07/16 12:09:33

江戸川 ☆☆☆☆	前半部分のみ読んで飽き飽きしてしまった。 あまりに冗長に当たり前のことを説明する語り口。 それでも星四つにしたのは知らない人にとっては読む価値があるのではないかという視点で。 個人的には二つか三つくらいの本だった。			
	8-156	149P (80分)		2010/07/14 12:42:37

マカロニぺんぎん ☆☆☆	私たちの世代にとっては日常にあふれてしまった「FREE」の経済。この本では、一体どのようにしてそれが成り立っているかが順を追って書かれていました。 ただ、一つ一つの説明が細かくってちょっと読みづらく感じてしまいました。			
	8-149	141P (120分)	35-43	2010/07/13 01:49:09

g2oma ☆☆☆	Freeの美学。			
	76-98	22P (30分)	76-77	2010/07/12 05:50:06

WHISKYMAN ☆☆☆	Free Businessが行動経済学と深い関わりを持っているってことは先日読んだ「予想通りに不合理」から何となくわかったし、そのせいかそんなにインパクトのあることは書かれておらず、もともと何となく知っている事実が整理されているだけという印象だった。 自分より先にこの本を読んだみんなの評価がアンカーとなった。つまり、読む前からこの本にあまり価値を感じていなかった。申し訳ないがこの本を読もうと思ったのは単にこの本が「無料で」貸出しされているからだ。…と、あまり読んでもいないのに批判してしまったが、もし皆が5つ星の評価をつけていたり、もしくは先入観を持たずこの本を手にしていたらもう少し違ったことを感じていたかもしれない。「アンカリング」+「人と違うことを恐れる日本人気質」の結果がこの評価です。			
	プロローグ1,2,4,16章	102P (50分)		2010/06/29 11:46:59

c nd ☆☆	「フリー」がどうして社会で商売として成立しているのかは分かりやすく載っていました。 でも結構話が横道に反れているような気も・・・			

	1ー224	224P (180分)		2010/06/16 15:29:01

DAIKINエアコン ☆☆	批判的なことを書きたいわけではないけれど・・・・そう，ないけれど！ まず，「なにを今さら当たり前のことを得意げに書いてるの？」という印象．コンサルを父に持っていたこともあり，似たテーマの話題は昔から聞いていたので，キャッチーな表現の数々には白けることが多かった．			
	1-146	146P (60分)	最初から飽きるまで	2010/06/12 00:33:15

ditherman ☆☆	・コラムは面白かったのでつまみ食いでも十分理解できる内容． ・10年前に出ていたら，革新的な一冊になったはずなのでおしい． ＞富士駿河 殿 ＞「無料」という言葉に惹かれ、あれこれ手を出してしまう。それでも企業は儲かる。 一読して，儲かる原理を理解しても，それでも手を出してしまう人間の欲って怖い			
	全部	350P (360分)	なし	2010/06/07 06:07:35

ばっは ☆☆☆☆☆	序盤の入門を読んだときはこれは前評判だけが高いだけかと思った。確かに当たり前すぎてつまらん。しかし、後半に行くにつれてだんだんと事例もマニアックになり、文章もイメージをふくらましてくれるものになっていく。読めば読むほどどんどん面白くなっていく。 個人的にはリナックスの部分は趣味とも合うので面白かった。 きっとまだ見ない後半部分はもっと面白いだろう。ぜひ誰かに読んでもらって感想を聞きたい。			
	26-149	124P (90分)	まだ読んでいない後半	2010/06/01 08:16:24

牛タン手工業 ☆☆☆☆	事例のところを中心につまんだので、それなりに実感を持って理解できました。 フリーを甘く見ていたマイクロソフトがリナックスのフリーに苦戦した話は、なんだか読んでいて面白く感じてしまいました。 新たなフリーに対抗するため、自分のフリーにもっと資金を投入しなくてはいけないとは、なんとも難しい社会だ。			
	125-224	100P (130分)	140-156	2010/05/31 19:51:35

ぼるてぃー ☆☆☆☆	本の厚さと、皆様の評価を加味し、読んだページを厳選しました。他の部分もつまみ食いしましたが、割愛します。筆者のFREEの理論がいろんな解釈をされやすく、書き方に若干難ありなのかと思います。自分なりに理解できればいいかなと少しハードルを下げて、もう一度同じ場所を読みました。それで、自分なりの理解ができたので星４つです。			
	8-24,120-124,315-320	28P (60分)	8-24,120-124,315-320	2010/05/25 21:29:17

k.k.t ☆☆☆☆	現在インターネットの世界では様々なモノがただで取引されているが、この背景には今までのビジネスモデルを覆すような新たな戦略が潜んでいる。 自分もこのフリーなコンテンツを大いに利用しているので、彼らの新たなビジネスモデルにはまっているのかもしれない。			
	1-223	223P (220分)	各コラム	2010/05/24 12:10:40

hulk ☆☆☆☆	いわゆる，企業のオープンソース化によるイノベーションの話です．別の講義でこの話に関する文献を読んだので，特に目新しいこともなく，（別の見方の提供を期待していたこともあり）面白くはなかった．つまんだところが悪かった？ ただ，Googleがどうやって儲けているか知らない人にとっては，新鮮ではなかろうか？ということで加点しました．			

	五章-十章	116P (60分)	5章，7章	2010/05/18 13:07:13

sky ☆☆☆	気になるところだけをつまみ読みしたので勘違いしているかもしれないが、何だか安っぽい印象を受けてしまった。内容としては、これまで自分が感じていたこと、考えたことがあるようなことに対して具体的な実例で説明されていて、漠然と感じていたことがはっきりしたが、それ以上ではない印象（そんな考えがあったのか！と思うようなことは無かった）。 やはりそれは自分がいわゆる「フリーの世代」というやつで、そういったことがある種当たり前だからそう感じたのかも。対象年齢がちがうのかな、と。パソコンやネットに馴染みのない人たちが読んだらどんな感想を持つのかが気になるところ。			
	8-14,76-98,135-156,180-215,315-320,コラム全部	103P (60分)	７章	2010/05/18 11:56:51

あんのーーん ☆☆☆☆☆	固定観念を覆す、フリーから利益を生むというビジネスがどういう流れで生まれ、どういった理由で成功したのか、事例などを通して理解することができた。 ただ、フリービジネス自体が今日では新しい訳ではないので、内容の目新しさ、斬新さという印象は受けないものの、俯瞰する上ではわかりやすく良書だと思う。知っていることの確認や整理にもなる。 読む必要がないか読むべきなら、明らかに後者。 自分はソファーやベットに寝そべってだらっだらしながら読んだので、その分時間はかかったが、サクサク読めて理解も容易。 分厚いから持ち歩きにくいとかどうでもいい感想もありますが、評価からは割愛します。			
	全部	313P (300分)	フリーの種類、Googleに関する話	2010/05/16 17:23:40

Solar ☆☆☆	年初に店頭で見てから、「どうしても読みたい」と思っていた一冊。 …の割に、あまり集中して読めず、途中までで終了となりました。 あまり興味がもてなかった？？ 各コラムは見てて参考になりますよ。			
	8-188	181P (240分)	コラムは見てて楽しいかも。	2010/05/11 13:09:45

Coppet ☆☆☆	どうして教科書がタダになるのか？というコラムを見て驚いた。 日本も教科書が無料になっていったらいいのにな。 フリーというものに関する理解はなんとなく得られたが、本当になんとなくといった感じ。 これくらいの理解ならコラムだけでも十分かもしれない。			
	1-48ページ、76-98ページ、コラムたち	85P (60分)	コラム	2010/05/11 12:43:38

橘 ☆☆☆☆	「タダほど高いものはない」っていう、 池袋ウェストゲートパークの主人公のセリフを覚えてます。 でも、これも以前の"FREE"のコトですね。 たしかに、自分たちにとって真新しいものはないかもだけど、 筆者がプロローグで述べている通り、 "FREE"の考え方は30代を境に変わっていて、 それより上の人にとっては、目からウロコものかも、 と思って、４つ星を付けました。 なんだかんだで、これを話題本と捉えているのは、 筆者の"FREE"戦略にまんまとハマっているのかもしれませんね（笑）			
	「フリーの誕生」「無料とは何か」「無料経	75P (90分)	第１６章	2010/05/03 11:03:29

	済とフリーの世界」を かいつまんで			

B4たかし ☆☆☆☆	何を隠そう、自分が「FREE」の享受者の一人であるので読んでみた。 自分も日頃からそういったサービスに触れているからだろうか、目を見張るような目新しい事象が無かったのは事実。 ただ、この本に書かれていることがこれからの経済で需要になってくることは間違いないだろう。 日本で定着するかは知らないけれど。 （自分が読んだ）240ページを軽いタッチでスルスル読ませる文章も、「FREE」っぽくて良いと思う。			
	1-240	240P (240分)	135-156	2010/04/27 11:31:20

溪華 ☆☆	「FREE」がウケるのは分かるけれど、分量の割には全体的に軽い。なんとなく想像がついてしまう内容だったので、もっと深く掘り下げてほしかった。			
	8-320	313P (30分)		2010/04/22 17:58:51

スズキ ☆☆☆	何かと話題になっていたので読んでみたのだが，それほどインパクトのある内容ではなかった（予想どおりに不合理を先によんでいたからだろうか）． 喫茶店で執筆していたり，エンサイクロペディアから引用をしていたりとなんだか軽い感じがした． 内容的にはフリーを用いた商法を整理できた点はよかったと思う．			
	8-109	102P (40分)	31-44	2010/04/21 00:11:42

たざわ ☆☆	途中からだと筆者の伝えたいことがわかりにくかった。フリーの流れにのまれず、逆にフリーを利用して利益を得るべきということなのか。			
	276-350	75P (30分)		2010/04/19 22:40:56

yuigawa ☆☆☆	ものすごくキャッチーな題材だが、ざっと見たところあまり目新しい内容ではなかった。期待度が大きすぎたのかもしれない。想定しうる限りの反論をマシンガントークで強引に押さえ込んでいるような印象。ただ、著者はこの本を無料で公開することで話題を呼び、利益を上げ、展開した持論を裏付けたというからそれは新鮮で面白い試みだと思う。			
	8-75,264-320ページ	123P (180分)	284-314ページ	2010/04/18 16:21:43

ふり太郎 ☆☆☆☆	無料であることがビジネスを成長させるためのマーケティング手法であるとして、フリーの在り方を様々な事例を交えて解説している。フリーを活用することで、自社の商品の購買を促す各社の取り組みが面白い（特にweb広告業界）。			
	1-350ページ	350P (210分)	135-179ページ	2010/04/18 14:47:43

rs ☆☆☆☆	フリー（無料、自由）の経済の起源の説明とフリーの経済の仕組み、現在のインターネット上でのフリーの話の説明がされている。フリーがもたらす影響の話は面白いが、世間で騒がれているほどではないという印象。			
	1-350ページ	350P (150分)	４章、５章	2010/04/16 14:22:29

	「無料」という言葉に惹かれ、あれこれ手を出してしまう。それでも企業は儲かる。 ものを得るためにお金を払うという社会の感覚が、薄れていくようにも感じた。 …とこのようなことを書き、評価も５点満点にしたのだが、他の人の感想や掲示板を見るとなぜか評価が低い。１００ページも読んでいなかったこともあり、またその原因を考えるため、付属図書館で借りてきて（ここまでで大変な時間と労力がかかったのはなぜだろう）、続きを読んでみた。			

富士駿河 ☆☆☆	結果は上の通り。その時「アイデアのちから」を読んでいたからかもしれないが、興味のあるウェブに関することなのに、事例がやや固い。４章の心理学に関することは面白かったが、それと比べると真面目で文章が長い気がした。 他人の評価に左右されたわけではない（はず）が、読み始めの１冊目だから、ついつい高い評価を付けてしまったのかもしれない。			
	8-179ページ	172P (165分)	49-98ページ	2010/04/13 19:28:57

ＴＯＰへ

プライスレス

著者名	ウィリアム・パウンドストーン	発行年	2010年
出版社名	青土社	ページ数	399ページ
値段	2,520円	ISBN	978-4791765287
コメント	ねだん、というものの不思議。いくらなら売りますか、いくらなら買いますか。刻々と変動する複雑精妙なるコミュニケーション・システム。 これって結局、プライスという指標を用いて人間社会の不条理なおもしろさをあぶりだす営みではないかしらん。経済学の根底に、そんな思想まで深読みしたくなったりします。 まあ、そんなかしこまらずとも、58ページの円筒形と碁盤の目のトリックだけでも、ぜひ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
あんのーーん ☆☆☆☆	個人的にはあとの章にいくにつれて面白く感じてきました！ 授業でもとりあげられたテーマの本で理解もし易かったですが、 分量が１週間で読むには厳しかった量でした。 ４章が魅力的なタイトルだったのでまた別の機会に全部読みたいです！			
	1-3章	202P (180分)	3章	2010/08/05 21:33:58
chocolate ☆☆☆☆	これ楽しい！！行動経済学なんて初めて知ったけど。 経済の人間じゃないけどこんなに面白いならば親と同じ方面に進んでもよかったかな…なんて思ってしまいました。 でも分量多くて、じっくり読むのは後ほど。			
	1-103	103P (40分)	11-17	2010/06/01 03:30:01
akilu ☆☆☆	よくわからなかった…自分、馬鹿なのかも。 あと、カタカナの固有名詞ニガテかも。 ちょいちょい出てくる一部の用語や事例は勉強になったので☆。 ヒューリスティックスには妙に食いついた。 ちょうどうちにスキッピーのピーナツバターがあったので確認してみたら、底がくぼんでました。			
	pp.1-133、203-225	156P (160分)	pp.11-17、203-211	2010/05/17 17:40:14
	人が無意識に決定する数値に法則はあるのか。この本では様々な実験や観察を通して、人は価値を決定するにあたり何を根拠としているのかについて述べている。 どの実験結果も興味深いものだった。でも「興味深い」範囲を出ない程度かなと。というのも結果			

sky ☆☆☆	のほとんどが「多くの人が」「○%以上の人が」「概ね」「平均して」というものだからだ。つまり、何度もその場面に遭遇することがわかっていれば、いわゆる「得をする」だったり「マジョリティー」な選択をすることは可能だが、たった一度の選択では参考程度にしか役に立たない。 また、それらの実験結果を見ると「自分はそんな選択をしない」などと思うかもしれないが、その答えを知る機会を失ってしまう点に注意。だって設問の意図を知った時点で無意識に答えるなんてできないしね。なのでこの本を全力で楽しむなら、すでに読んだ人から実験を出してもらうと、この本に説得力が出たり、逆に全然信用できなくなるかも。 でも読めばきっと、これまで考えるときに意識していなかった（出来ていなかった？）ことまで考えが及ぶようになるので、知っておいて損はない内容だと思います。アンケートなどに答える側の時にはあまり役に立たないかもしれないけど、出す側になったとき、結果の予測や考察の時には参考になるんじゃないでしょうか。			
	1-165,264-275,403-409	182P (160分)	91-103,134-139,155-165	2010/05/10 22:25:29

弟子 ☆☆	「『あなたが信じている行動経済学』を疑ってほしい」と思ってほしいように聞こえて仕方がない。 ・・・どうしてこう、経済学というやつは現実に媚を売ってまで『原理』の『説明』やら『証明』やらに心血を注ぐのだろうと首を傾げる。人生は複数回ゲームであることを前提としないで公正《フェアネス》に関して実験を行うほうがアンフェアだと、しょせん帰無仮説が棄却されただけの仮説を、声高らかにさも普遍一般の理論であると述べられるとどうにも納得したくない気持ちに駆られる。J.Brunerに失礼だと思ってみたり。『実験』という観測を行って、出力された結果から非局所的な結論を導き出そうという努力は否定される類のものではないが、隠れた変数を盲信するのは理学者ならまだしも、工学者としては躊躇せざるを得ない。・・・ こんな感じで疑ってかかるようになると、途端にこの本の読み方は逆転する。すなわち「世間一般ではこうらしい」という説明理論が「でもたぶん自分はそうじゃない」という間違い探しへと発展する。行動経済学的にはそれっぽいことを言っているつもりらしいけれど、でも自分はそうは思わない。アンカリング効果にもプロスペクト理論にも引っかからないし、小さなハートのチョコレートなんかいらない。不確実でも大金がほしいし、需要供給があるんだから値上がりだって公正だ。そんなことを考え始める。 もし全部読もうと思う人がいるならば、自分はどれだけ「世間一般」ではないか『掏れてる度検定』をしてみてはいかがだろうか。			
	149-165 191-200 403-409	34P (10分)	最後の章	2010/05/07 18:28:41

ukayare ☆☆☆☆	経済…というより心理学よりですね、これは。 日常にあふれている価格に関する様々なちょっとした疑問はこの本を読めば「ああなるほどねー、そういうことだったんだね」というようになる…かも知れない。 しかしながら現在日本では無欲の人々が増えている（潜在的にはきっとほしいものはあるだろうけど、それが何か分かってないっていうのが真理じゃないかと勝手に思ってるけど）。こうやって数字と格闘し、購買欲を煽っていくのも限界が来てるのかもしれませんね。 あといわゆるプレミア要素についての考察がなかったのがちょっと残念だったかなあ。というのもこれをうまく使って儲けてるのが日本を今や代表する（？）ヲタク文化（市場）ではないかなと思っているからであって…まあいいや。東先生、あとはお願いします 余談：GW中に家の電灯がぶっ壊れました。夜家で本が読めない…			
	全部	399P (450分)	最初	2010/05/06 19:00:06

ぼるてぃー ☆☆☆☆	ヒトが社会性を持ち、何かとの関係性の中で生きているのならば「比べる」という行為は自然で合理的な行動であるはず。しかし、その行動の結果は…。薬指の長いヒトには気をつけましょう！！			
	18-30,54-59,140-170,220-225,241-244,261-275,350-362,383-386,403-409	99P (60分)	58-59,220-221,358	2010/04/20 21:20:49

TOPへ

貨幣の経済学

著者名	岩村 充	発行年	2008年
出版社名	集英社	ページ数	252ページ
値段	2,415円	ISBN	978-4087805062
コメント	お金の価値について、とことん探究してみた。 基本に戻って考えよう。銀行のしくみから、ていねいに説き起こしつつ、金本位制のように貨幣にアンカーが付いている時だけでなく、そのアンカーがはずれちゃっても、お金の価値がメチャメチャにならないのはなぜ？ と問いを組み立ててゆく。 実直な最先端。ホンキで経済学したい人に。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ろしあ ☆☆☆	金融の本なんかにチョクチョク出てくる話ばかり。 けれども常識としてしっかり押さえておきたい内容でした。 ということで☆三つ。			
	12-55, 108-141	76P (70分)		2010/08/10 13:27:00
オレンジ ☆☆☆	課題に追われているときに電車の中で読んだのが間違いだったのか、言葉自体は分かるんだけど、言ってることが掴めなかったです。 やさしく例を交えた丁寧すぎる説明が、かえって読みにくくしている感じがします。 でも、金本位制と昭和軍国主義の関係など、ところどころ興味深い箇所もあったので星3つ。			
	pp.3-167	165P (120分)	pp.45-48	2010/07/01 19:30:54
ぼるてぃー ☆☆☆	高校の現代文の教科書に『ホンモノのお金のつくり方』？という話があったなぁーと思い出しました。 歴史的な部分は読み飛ばして「魔法のオカネ」のつくり方を読みました。銀行口座に預けていなくても利子が生まれるお金を設計できる、なるほど、という感じです。電子マネーの本質的な可能性を見ました。			
	3-7,216-226,248-266	35P (30分)	3-7,216-226,248-266	2010/07/01 18:51:12
hulk ☆☆☆	皆さんのコメント通りです．とくに目新しい内容でもなく（マクロ経済学の教科書的）．ただ教科書よりは読みやすく感じたので，この評価.			
	一章，二章	106P (60分)	pp.49-55	2010/06/29 10:59:49

an ☆☆☆	どこかで習ったような単語が結構登場します。（ブレトンウッズ体制とか）なので、授業っぽい感じであまり面白くなかったような気がします。。			
	pp3-pp106	103P (80分)	第1章	2010/06/22 13:07:31

B4たかし ☆☆☆☆	途中から齧っただけなので，「たぶんちゃんと読めばもっと面白いんだろう！」と希望的観測をこめてこの星に.			
	108-145	38P (60分)		2010/06/22 11:56:34

ditherman ☆☆	貨幣自体を分析している点が面白い. でも，さすがに大学院生にもなれば一度は聞いたことのある話だと思う. 質を落とさずにやさしめの文体で書くと，子供が喜んで読むと思う. 電子マネーで思い出したけど，昔クレジットカードが「最強の紙幣」だと思ってた．見せるだけでなんでも手に入るように見えた.			
	全部	266P (250分)	なし	2010/06/14 23:34:02

つて ☆☆☆☆	どうして諭吉さんの似顔絵が描いてある紙っきれが価値を持つのか、その理由を一つ一つ丁寧に説明していてわかりやすい			
	3-105	102P (50分)	2章	2010/06/01 12:22:58

rs ☆☆	貨幣の歴史がつらつらと書かれていて前半は知っている内容でした。 最後の章は電子マネーの話が書かれていて興味深かったものの、全体としてはあまり面白くなかったかなと思いました。			
	全部	252P (90分)	228-263	2010/05/28 10:45:24

上場亮 ☆☆☆	たぶんこの本のおもしろいところまで読んでなかったです。 最初のほうはある程度知っている内容でした。			
	1-106	106P (60分)	特になし	2010/05/17 21:36:58

Solar ☆☆☆	もう少し、この分野に対する知識を身につけてから読みたいと思いました。 今の私には難しく感じました。			
	57-106(2章)	50P (45分)	わかりません。	2010/04/27 12:54:40

k.k.t ☆☆☆	貨幣についての歴史は知っているところもあれば、幕府が開国によって金を流失させてしまったところなどは初めて知ったので、なるほどと思った。			
	3-55	53P (40分)	49-55	2010/04/27 02:58:39

あんのーーん ☆☆☆	普段考えたことのないような紙幣のアンカーについて、金体制の変動相場と現在の相場の違いを明らかにし、紙幣と国債の関係を明らかにしている。読みなれないためか、高度な議論に感じ、深く理解することが難しかった。			
	58-263ページ	206P (120分)	108-167	2010/04/19 17:34:05

TOPへ

マネーの進化史

著者名	ニーアル・ファーガソン	発行年	2009年
出版社名	早川書房	ページ数	472ページ
値段	2,835円	ISBN	978-4152090959
コメント	え？ 進化してんの、というくらいに、昔と今と、人のふるまいは変わらない。 金融関係の就職めざすなら、元祖バブル仕掛け人、ジョン・ローさんとお知り合いになっておかれるとよろしいでしょう。「閣下、私が大きな誤りをしでかしたことは認めますが、それは私が人間だからです。しかし、私の行為のなかで悪意や不誠実に基づいたものは一つもありません」（204ページ）		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
上場亮 ☆☆	かしこまりすぎた文章に拒否反応を起こした。 実はすげー本なのかもしれないが。。。			
	301-321	20P (30分)		2010/08/06 15:46:30
ぼるてぃー ☆☆☆	金融界のナポレオン、っていう一節だったら読んでみようかなと思っちゃいました。きっかけなんてそんなものでいいですよね。読み易くはないですが、読みにくいとも思いません。おもしろさとか何か得るものがあるか？とかを考えず、一節だけ拾って冊数をかせぐ、というのがこの本のベストな使い方だと思います。			
	5-26,102-120,179-210,264-278,357-367,450-476	116P (120分)	102-120	2010/06/25 18:14:56
ばっは ☆☆	文章はかたいし、目次にはそそられない。サブタイトルが少し面白いかと期待を膨らませては見事に裏切られる。 気分としてはゲームセット間近のモノポリーを負けてる側でプレーしている気分になる本。 ためにはなるかも			
	301-367	67P (30分)	特には	2010/06/08 12:11:53
	そういえば、「歴史と経済」なのに、 追加される本は「歴史」でも「経済」でもないような。 うーん、読んでいてちょっと後悔。			

橘 ☆☆☆	金融関係に進みたい方は、読んでおかれると金融のことが一通り分かります。 本文にある通り、自分も含めて金融が苦手な人もいると思うので、 教養として読んでおいた方がいいのかなぁ。 金融の歴史がずっと書かれていてちょっと退屈かも。 ただ終章は「金融市場の失敗」を踏まえた教訓が書かれていて、 参考になるかも。 ブラック・スワンに書かれている「ガウス分布にとらわれるな！」ともそこでリンク。			
	第６章・終章	110P (120分)	終章	2010/05/30 22:40:03

マカロニぺんぎん ☆☆☆	「歴史と経済」という名のこの授業で一冊教科書を選ぶとするなら、この本ほど相応しいものはなかなか見つからないのではないかと思いました。タイトルの通り、経済の歴史について詳しく書かれており、歴史、経済を同時に学ぶことができる一冊でした。さらにただ事実を並べただけでなく、身近な例をあげて説明している部分もいくつかあったため、現代の私たちと当時の人々の思考や習慣を比較することもできました。 ただ、教科書的な性格が強すぎて一つの課題を掘り下げて掘り下げて説明しているため、途中で飽きてしまうことが何度かありました。それぞれの章を冒頭から読んで、飽きたら次の章にワープ！という読み方をお勧めします。			
	1-233	233P (180分)	p.44末-p.53、p.218-p.224初め	2010/05/11 01:53:32

弟子 ☆☆☆	『歴史は縦に学ぶものだ』高校時代の世界史の先生から学んだ唯一の言である。 マネー、という抽象的になりやすい概念を、具体的な複数の対象に絞って掘り下げている本。私が読んだ箇所は「不動産」に関して、ひたすら縦に縦に掘り下げられていた。 金融市場の変化は、それがどんな現象であっても、結果である以上どこかに原因があるはず。その原因を『歴史』の中に見出していく工程は、理系お得意の数式や理論で『説明』や『証明』することは出来やしないけれど、その時代の大衆の考え方や、流行や、行動理念などがきちんと反映されていており、それら原因が現在の結果を生み出しているという帰結は『納得』することが出来た。			
	301-367	68P (20分)	気に入った章タイトル	2010/05/06 18:59:40

asce ☆	カタっ！！ただただ硬い。 序盤をパラ見して、読破するのは困難だと判断し最終章に逃げた。 だが、逃げた場所には自分のためになる言葉が待っていたので、よかった。 タイトル通り、純然たる“史”であった。			
	450-476	27P (80分)	450-476	2010/04/22 23:39:19

ＴＯＰへ

アダム・スミス

著者名	瞠目卓生	発行年	2008年
出版社名	中公新書	ページ数	283ページ
値段	880円	ISBN	978-4121019363
コメント	今さらアダム・スミス？ そう、今だからアダム・スミス。 こんなにカタいつくりだけれど、経済本いちばん人気。 ご存知「神の見えざる手」は決してメカニカルな自由競争システム礼賛ではなくて、人間と社会に対する深い信頼と洞察に裏うちされたものなのですと、コチコチの古典をゆっくりじっくり吟味しながら、スミスの意図の深奥へと錘が下ろされてゆきます。 『国富論』の陰に『道徳感情論』あり。 経済イコールお金の動き、そんなカサついた先入観が、いつしかやんわり溶かされて、堅苦しい学問のお話なのに、心なごんでしまう不可思議さ。 ただし！ 濫読にはとてもとても不向きです。叡智の女神は根気よく扉を叩く者にしか微笑みません、少なくともこの本の場合は。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
鍋工房 ☆☆☆☆	言ってることはカタいけど、その裏には人間に対する愛情のようなものが感じられ、時たまそれが見え隠れする。そんなところがツンデレ本と呼ばれる所以なのかな…と想像。 ただ、何が真の豊かさと言えるのか、求められるべき正義は何か、といったようなところに恣意性を感じてしまいます。そこを掘り下げてくれると良かったかも(内容は煩雑になるけど)。それか、「使える！経済学の考え方」とセットで読むといいかもしれませんね(そっちは読んでないけど)。			
	all	283P (300分)		2010/08/19 04:59:36
かーたか ☆☆☆	もう一度文献の意味を捉え直し、アダムスミスの本当の主張を考察するというもの。今までの解釈とは異なるものを得ようとしている。スタンス的には経済学を再考し、実はもっと価値あるよと主張していて好きだ。過去の遺物を捉え直せばいかようにも知見が出てくるというのはやはり古典のすごいところだ。しかし、その時代に合うように、または求められるような知見を意識的なフィルターを通して見ているというのも否めないのではないか。			
	1-120	120P (150分)		2010/08/10 15:43:14
DAIKINエアコン ☆☆☆	関心が持てなかったので途中でダウン			
	1-50	50P (60分)		2010/08/04 17:00:47

なかま ☆☆☆	無人島に一人で暮らすならば、私たちはきれいな服をきたい、立派な家に住みたい、豪華な食事をとりたいとは思わないだろう。 という主張には納得。欲というのは、集団生活の中で、他者を意識した瞬間に生まれると思う。 そう考えると、グローバリゼーションによって遠い国の情報がすぐ手に入るようになった現在は、直接的に見える隣の人との比較にとどまっていた過去の時代よりも一層、他者との比較による欲望の生産が加速している時代と言えるだろう。			
	70-108	39P (25分)	73	2010/07/20 18:39:15

溪華 ☆☆☆	アダム・スミスの経済学について、教養として知っておいた方が良いポイントについてまとめられています。 経済学にしてみ、社会学にしても、なんとか人間を理解したい、という努力が伝わってきます。 だた、文章が多く、文系の文献のように感じられて東工大の学生には読みにくい本かもしれない。 個人的には、コンサルやシンクタンクに就職したい、なんて思って、業界の本を読んでるくらいなら、こういう本を読んで欲しいと思う。			
	すべて	283P (240分)		2010/06/21 18:10:34

くま ☆	よく分からず、途中であきらめてしまった			
	1-20	20P (30分)		2010/06/08 12:59:43

RKJK ☆☆☆☆	お堅い本なので面白くはなかった。ただ、勉強にはなったので点数は高めにつけました。 理想的な経済のあり方についての話だけど、理想はあくまで理想、実現は不可能だろうなぁと思わざるを得ませんでした。			
	1-283	283P (300分)		2010/06/07 15:55:09

ditherman ☆	経済学ってこんなにカタイことやってるの？ どこがデレなのか理解できなかった.			
	全部	290P (300分)	なし	2010/06/07 06:42:33

rs ☆☆☆	かたい文章なので、がっつりアダムスミスの話を知りたい人には良い本だと思いますが、興味がないと読めない本でした。			
	3-108,270-290	120P (90分)		2010/06/01 11:29:21

7boys ☆☆☆	おカタくって無理でした。			
	25-86,109-235	189P (60分)		2010/05/31 15:15:28

c nd ☆☆☆	アダムスミスの考え方がわかりやすく載っています。 経済学を学んでいる人は読むと勉強になりますね。 アダムスミスといえば「神の見えざる手」というフレーズがすぐに思い浮かびますが、この著書では別の角度からアダムスミスの考え方をつづっている感じがしました。			
	1-285	285P (200分)		2010/05/29 15:29:31

まー ☆☆☆☆☆	経済学の祖、アダムスミスの「思考」がわかる本です。 経済学を学んでいる人は是非一度読んでみることを勧めます。 現在学んでいる経済学の元の元がわかります。			

	1-283	283P (200分)		2010/05/25 12:57:50

chicken-run ☆☆☆	何だか持って読んでるだけで自分が賢人になったかのように錯覚させてくれる不思議な本 「ツンデレ本」という前評判に興味を持って読み始めたけど、全然「デレ」てなくないかこの本？ いや、言ってることは面白いんだけどさ、もっとこう親しみを感じられるような文体で書いてくれても良かったんじゃないか？正直文体が″おカタ″過ぎる… 個人的には「国富論」より「道徳感情論」のパートが面白かった			
	全部	285P (260分)		2010/05/23 19:42:15

hulk ☆☆☆	ツンデレ本と呼ばれているけど，僕にとってはツンツンした本でした．だって，生活必需品が平等に分配さえされれば，みんな幸せなんて「弱い人」の僕にはとても…			
	序章-三章	142P (60分)	第二章	2010/05/18 12:54:20

Apollo ☆☆☆☆	経済の本というよりは人間の思考と社会に関する本です。スミスが人間をどのように考えていたかがわかります。びっくりするほど世間一般のイメージと違います。 わかりにくいという方は最後にこの本の内容がまとめられてるのでそこから読むといいかも			
	1-285	285P (240分)	269-285	2010/05/17 17:57:48

おれ ☆☆☆☆	「社会的存在としての人間」に共感。 おれ、この本買おうかな。			
	3-69P、205-290P	151P (180分)	269-290	2010/05/11 12:36:05

ドナルド ☆☆☆☆	なかなか説得力のありそうな雰囲気．時間があるときに一気に読んでみたい．			
	1-50	50P (40分)	32-36	2010/05/11 10:25:24

maaa ☆☆☆☆	人間と社会について深く考えられていて、なるほどと思う部分がとても多かった。いつかじっくりと読みなおしてみたいと思える本だった。			
	3-138	136P (170分)	70-106	2010/04/27 10:14:30

1412 ☆☆☆	精神の平静が幸せにつながるというのはなるほどと思った			
	1-283	283P (300分)		2010/04/26 17:57:51

つて ☆☆☆	法哲学と内容がかぶっている！正義論が好きな人はいいかも。			
	3-140、236-285ページ	186P (100分)	１章	2010/04/19 12:56:59

弟子 ☆☆☆	私にはこの図法は扱いづらかったってことだ。 イエスなんとかさんが仰せになられた言葉を拾い集めてきて人生の道しるべとした旧約聖書と大差ない。アダム・スミス教とでも名付けたらいいんじゃないかな。だって結局のところ学問に必要なのは信仰心だし。道徳とか正義とか内面とか感情とか行為とか語られても、それが地図の図法レベルの違いしかないことわかっているし。いくら周りが面白いとはやしたてようが認知的不協和を起こすこともなく、結局私にはこの本の面白さがわからなかったし、ツンデレ女神様のツンしか出てこずに、デレにはご登場願えませんでした。 ただ、p83図2-1なんかは非常に納得がいった。貧困の最大の罪過は、最低水準以下の人がスタートラインに立つことさえ許さないこと。そのくだりは痛感した。 …（すでに評価の高い本は嫌いという癖が変にバイアスとなってこんなコメントしか残せませんで			

	した。ゴメンナサイ。			
	第1,2,3,7章	171P (70分)	図2－1 富と幸福の関係	2010/04/14 23:59:43

富士駿河 ☆☆☆☆	人間の感情を構造的に説明するところはやや無理があると思ったが、幸福追求と道徳のセットで社会はバランスを保っていることが、当たり前で大切だと感じた。 難しかったが、最後の章も読んでおくべきだったと後悔。			
	3-138ページ	136P (105分)	75-99	2010/04/13 19:40:59

ＴＯＰへ

いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ

著者名	吉川 洋	発行年	2009年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	270ページ
値段	2,009円	ISBN	978-4478008263
コメント	がっつり経済学したい人に。 これでもかと懇切丁寧饒舌なイマドキの経済入門書と違って、碩学が容赦なく豪速球を投げ込んでくる。限界効用とか購買力平価とか、教科書に載っている基本概念が、どんな時代背景や個人史から生み出されてきたかが立体的に会得できるようになれるので、挑み甲斐はあるけれど、基礎体力がないとキビしいでしょう。 鎌倉の大仏の前で笑ってるシュンペーターさん（46ページ）が、なごみポイント。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
上場亮 ☆☆☆	経済を学んでいるが、この本はよくわからん（汗 もっと勉強せねばと自覚させられる一冊。			
	1-55	55P (60分)		2010/08/06 15:41:56
くま ☆☆	自分の興味の無い分野に挑戦してみましたが、やはり厳しかったです。。			
	1-50	50P (60分)		2010/06/29 12:35:34
chicken-run ☆☆	まさにケインズ＆シュペーターLOVEな本 正直この本は人を選びます。日頃から経済論に慣れ親しみ、ケインズ、シュペーターの名をよく目にするような人にはとても面白く、ためになる本だと思います。しかし、私のようにあまりそちらに明るくない人にとってはただただ読んでいて眠いだけの本でした。			
	1章- 5 章	61P (30分)		2010/06/08 09:46:26
g2oma ☆☆☆	まえがきが面白かった。時間はかかったけど、経済の現象（？）と歴史はなんとなくちょっとだけ分かった気がする。でも。。。本に離れて数字を見ると頭がぐるぐる。			
	まえがき、1-13、173-222	65P (200分)		2010/05/18 08:07:17
	ケインズとシュンペーターを題材にした経済歴史学といった感じで二人の人生と経済界への貢献が細かく書かれています。			

忍者 ☆☆	ただ今の経済に絡めて役に立つような話は出てこないので、題名は「じぶんで、ケインズとシュンペーターに学べ」に変えたほうがいいと思いました。 僕が学べたのはシュンペーターが意外と日本人顔しているってことくらいです。			
	1-55,236-242ページ	61P (20分)	253	2010/05/17 22:42:13

TOPへ

使える！経済学の考え方

著者名	小島寛之	発行年	2009年
出版社名	ちくま新書	ページ数	224ページ
値段	777円	ISBN	978-4480065094
コメント	ハルサーニの定理がやっと分かったよと某ゲーム理論家の先生。山室はアマルティア・センに少し近づけた気が。 そんなふうに巨人たちのエッセンスをコンパクトに届けてくれる一話完結入門講義の赴きです。「法哲学」のおともにも最適。 例題、解いてみる？「ピッチャー１杯分のビールを、形の異なるグラスを持ったｎ人に公平に分けるには？」 早くしないと泡が消えちゃうよー。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
Solar ☆☆☆	経済学が主としてテーマとしているものは、お金の量や儲けることではなくて、幸福そのものである……。 今までの経済学からは、あんまりそういう風に考えられないなぁ。 ちなみにビールの問題ですが、私は注ぎ返しとかやってるうちに炭酸がなくなって不味くなりそうなんで(量が少ない損失<ビールが不味い損失だと思うんで)、どっちにしろ文句は言わないと思いますｗ			
	1章まで	52P (40分)	序章。	2010/08/03 11:14:36
富士駿河 ☆☆☆	経済学は何のためにあるのか？という質問は、実際自分の頭の中にもあった。「人々を幸せにする」ことは他の学問でも出来そうなことだし…。 やはり幸福を数値化するのは無理があると思う。数多く表れる数式よりも、経済学者（筆者も含む）の思想の方が興味深かった。			
	7-170ページ	164P (110分)	12-52ページ	2010/07/23 15:01:47
an ☆☆☆☆	公共選択理論の話が多かったかな。。その分野での大切な理論、定理などをかなり噛み砕いて書いてあるので、わかりやすくてお勧めです。 （フォンノイマン-モルゲンシュタインの期待効用に関する話は、ありがたかった。。。。これを読んでから、M藤先生の授業を聞けばよかったｗｗｗ）			
	全部	235P (150分)	3章、6章	2010/07/17 18:58:10
	経済学の概念部分、数学の導入の有効性などが理解できた。でもしっかり全て読むには、結構な集			

あんのーーん ☆☆☆	中力と体力が必要そうでした。もう少し基本的な知識をつけて頭が良くなってから再度読みたいと思います。			
	序章	28P (20分)	序章	2010/07/08 00:21:08

つばくろう ☆☆☆	今習っているミクロ経済学の授業では効用関数がというものがあると認めて授業が始まっていたが、この本ではそもそもどのように効用関数が発見されたかまで書いてあって為になった。			
	1-235ページ	235P (180分)	30-84	2010/05/24 02:16:27

rs ☆☆☆☆	法哲学で学んでいるロールズの正義論と経済の結びつきがよくわかった。自由とは何か、正義とは何かを経済ではどのように扱っているのかをミクロ経済学の歴史などを踏まえてわかりやすくかかれていてよかったです。			
	全部	224P (90分)	第5章	2010/05/19 16:51:35

komu ☆☆☆☆	経済学の可能性と限界への理解が少し深まる気がしました。 ただ、内容は前提知識がないと難しいと思います。			
	7-52,205-230	72P (40分)	8-9	2010/05/18 10:55:14

maaa ☆☆☆	経済と聞くと、すぐ金銭のことを考えていたが、社会のあり方を考えるのにも使えることがわかった。			
	全部	224P (180分)	54-85	2010/05/06 12:56:34

つて ☆☆☆	経済学における公平性・幸福に関する議論の重要性が改めて感じられた。			
	7-85	78P (40分)	2章	2010/04/27 11:35:24

Coppet ☆☆☆	みんなをより幸せにするための論理、という副題に惹かれて読んでみましたが、なかなか難しい。 論理性を重視しているため直感的に読み進めるのが難しく、導入部で終わってしまいました。 時間があればまた読み進めたいです。			
	25-52ページ	28P (30分)	25-27ページ	2010/04/20 12:54:47

TOPへ

ブラック・スワン 上・下

著者名	ナシーム・ニコラス・タレブ	発行年	2009年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	526ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4478001257
コメント	7つの魔法のコトバで世界を変えてみせましょう。 「ブラック・スワン」と「七面鳥」、「月並みの国」と「果ての国」、「ベル・カーブ」に「マタイ効果」に「プラトンの性（さが）」。杖をひとふり、えいっ、さあどうだっ!! 比喩の巧みさ、問題の本質を突くするどさと知的ユーモア。統計学のお勉強のかたわら、どうぞ（ニヤリ）。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
鍋工房 ☆☆☆☆	「計測自体が不可能な不確実性」って怖いですね。しかも、歴史に影響を及ぼすのは、大抵がその類の不確実性ということですから余計に…。 話があっちに行ったりこっちに行ったりと忙しいので、若干読みづらく感じるかもしれません。著者も言っているように、統計エッセイだと考えて読んでいくのがいいと思います。			
	上巻	293P (250分)		2010/08/19 05:28:19
RKJK ☆☆	面白い面白くない以前に読んでていらいらした。たぶん文体のせい。おめーらは何もわかってねぇんだよ、バーカ！と言われてるような気分になった それと、作者がどういう意図でこの本を書いているのかいまいちわからなかった もちろん黒い白鳥の存在にみんな気付いてないというメッセージは伝わったけれども具体的にそれに対してどう対処すべきなのかがよくわからなかった まあ911に対処しろと言われてもどうしようもないんだろうけど、それではこの本は一体なんなのかっていう話になるし とりあえず読むのを諦めて結論だけを見たところ「自分でしっかり考えろ」っていうのが作者のメッセージのようです 既存の理論が本当に正しいのか、データは本当に信頼できるデータで何を示したものなのか、ということをもっと疑ってみるべきということですかね なんとなく意図はわかったので一点追加したけれども文体があわないことに変わりはないので読み進める気はしなかったです			
	上1-185,下214-221	193P (200分)		2010/07/27 12:48:08
つばくろう ☆☆☆	歴史学の授業でも扱われた本なので読みやすかったです。七面鳥の話が面白かったです。			
	上巻	293P (200分)	3章	2010/07/16 01:28:11

hulk ☆☆☆☆	ちょっと解釈がずれているかもしれないが，思ったことを． この本で，月並みの国と果ての国の概念はわかった．リーマンの破綻・世界不況というのは，この世界が果ての国に征服されたという事実を示していると思えるようになった． 金融工学なんていうものから作られたビジネスモデルによって，果ての国の回りものであるお金が，月並みの国の現象をも包括してしまった（天候デリバティブなど）． その結果，格差の広がり，予想外の大不況がもたらされてしまった． 私たちは月並み国を果ての国の支配から解放してやる必要がある．さもなければこの世界はブラックスワンがありふれる，不安定な世界になってしまうのではないだろうか．			
	最初-第三章	84P (60分)	p.76-	2010/06/01 02:37:45

つて ☆☆☆☆	過去は典型的な未来を表現した一番信頼できる予測だなんて安易に思い込むからこそ、私たちには黒い白鳥がわからない。 まさにそのとおり。 しかし、人は、帰納的に、「前はこうだったから、次もこうだよね」って考えずにはいられない。 そうじゃないと、先を考えることはできないから。 だから、僕たちは、これからもブラックスワンと一緒に生きていかなくちゃならない			
	上3-185	182P (100分)	3章	2010/05/25 11:08:58

江戸川 ☆☆☆☆	相性の問題かもしれないが非常に読みづらい、いらいらする文章だった。 それでも、ベル型カーブに従うことなんてそう多くないという主張は伝わってきた。 ひょっとすると、あなたや私の研究もベル型カーブに従ってないのに、 従っているとして主張を繰り広げてしまっているのかもしれない。 それが著者にバレたら「さあやめろ研究やめろ今やめろ」なんていわれるのかも。 そんな著者の「ベル型カーブ上等」（使うところを弁えろ）的な本でした。			
	全部	526P (540分)	下102ページ	2010/05/21 17:09:00

ばっは ☆☆☆☆☆	「知識」と呼ぶものは、ある意味、病気の一種だと言えるのである。 私たちは自分たちが得た知識に毒されている。しかし、その知識がなければもう生きていけないところまで来てしまった。 知識という魔物にとりつかれた気がする本でした。 こんな解釈をするのも深読みが止められないからかも。 この本が面白いと思った確率80%、役に立つと思った確率50%、人に話したいと思った確率40%、黒い白鳥を探してみようと思った確率30% 私が院の授業で苦しんでいるのもみんなが苦しんでいるから統計に過ぎないんだろうな。			
	119-298	180P (120分)	132	2010/05/17 22:47:27

	統計の教科書に「ほとんどの事象はガウス分布に従う」って、 書いてありました。でもこの本は、 「ガウス分布なんかいらねぇよ」っていう本です。 実を言うと、この本、だいぶ読みにくいです。 口の悪い人のブログみたいなカンジです。やたら感嘆詞多いし。 見出しだけ見ても、何が書いてあるか見当つきません。

橘
☆☆☆☆

「鳥のフンの探し方」とか「坊主とアナリスト」って何？！
だから、あまりまとまってない本かもです。

でも、どうやら著者が言いたいことは、
「ガウス分布、ガウス分布って、みんな使ってるけど、
じゃあ、なんで使ってんの？そんなに信用できるの？」
「たしかに大災害とかテロとか、起こる確率は天文学的だから、
みんな起こらないってタカをくくってるけど、
そういうことこそ起こったときに大ショックを与えるから、
注意すべきなんじゃないの？」
っていうことっぽいです。確かに一理ある。

研究にガウス分布を使っている人に読んでもらいたいかも。

第１５章 ベル・カーブ、この壮大な知的サギ etc.	50P (90分)	立ち読みに向かないかも	2010/05/17 12:50:56

ukayare
☆☆☆☆

インテリが屁理屈をこねるとこうももっともらしく、かつ反論するのに面倒くさい物なんだろうか。

この本は作者の屁理屈がかなりの割合を示しています。だがそれがいい。
この本は社会科学(おもに統計分野）にかなり食って掛かっています。だがそれが(ry。
この本は非常に攻撃的表現が多く含まれています。だが s (ry

やっぱり本というものはこれくらい癖が強いものがいい。癖が強いということは作者が面白い人間ということだからだ。面白い人間はやはり面白い本を書く。

とりあえず上巻のみなんで下巻読んだら内容にも触れていきます。

読んだので触れます

非常に興味深いです。作者はベル型カーブ（いわゆるガウス分布）が非常に気に入らない、というよりこれでお門違いの講釈をたれるのが非常に嫌いというのがよくわかったし、そのお門違いの講釈が世の中に蔓延しているということもわかった。
これというのも人間（というより素人と言ったほうが適当か）は学者が作り出したモデルが神の啓示であるかのように信心深く手を合わせ祈っているからであろう。たとえそれがまやかしであったとしても、だ。
そしてそんなお馬鹿（ある意味ピュアな人）にはブラックスワンが舞い降り混乱してしまうというわけだ。ではこれに負けないようにするどうしようというのが本の趣旨である。

そういえば東海大地震はいつ起きるんでしょう。起きる起きるといいつつもうかれこれ10年くらいたとうとはしてないだろうか。いつ起きてもおかしくはないだろうとは言われてますけどね。
簡単に行ってしまえばこれが起きたらブラックスワンなんだろうなということであります。

阪神大震災、地下鉄サリン事件、果てにはサブプライムローンにおける経済危機、これらもすべてブラックスワンだろう。

内容は結構細切れにコラムみたいな感じでいろいろ書いてあるのでとりあえずパラパラめくって興味があった見出しがあれば読むっていうのもなかなか面白いのではないか。

ただ結局の締め方が妙にこじんまりとしていた気がしたので拍子ぬけてしまった。確かにそれしかないだろうなあとは思いますけどね。

余談：やっぱ物語じゃない本は読むのに時間かかりますわ。集中力が持たない。。。

全部	526P (550分)	76 - 84	2010/04/27 19:01:47

ひまじん
☆☆☆

ほとんど起こらず予想もできないが、起こると世の中に大きな衝撃を残す事柄を‘黒い白鳥’の存在にたとえ、世の中の事象の不確実性を説明しています。著者は、歴史上の大きな出来事も、‘黒い白鳥’が現れたようなもので、その出来事に対する解釈は所詮は後付けに過ぎない、というようなことも言っているようです。個人的には、なんだか冗長な文章が続き、訳も読みにくい印象を受けたので、また時間があるときにでもじっくりと読みたいと思いました。

	上1-90ページ	90P (90分)		2010/04/22 02:31:30

TOPへ

たまたま

著者名	レナード・ムロディナウ	発行年	2009年
出版社名	ダイヤモンド社	ページ数	321ページ
値段	2,100円	ISBN	978-4478004524
コメント	冗談みたいなタイトルだけど、ランダムネスという強敵と大マジメに格闘した科学者たちの果実です。あんな法則、こんなワナ。索引から攻めるのもアリな網羅性がお得ポイント。 そうそう、68ページの３つのドアの選択問題、東工大生38名にトライしてもらったら正答率18%でした。たまたま？？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ポチ ☆☆☆☆☆	元（あくまで元）数学好きとしては楽しい話ばかりでした。最後の冊数合わせにたまたま手に取ったのですが、〆切がなかったらノートに式書きこみながら全部読んでたと思います。できれば統計勉強し始めた学部生のうちに読みたかった。 しかし、小説読んでて裏切られるのは快感だけど、数学解いてて裏切られるのは屈辱以外のなにものでもないです。			
	pp. 3-41, 67-91, 157-191	99P (120分)		2010/08/18 11:26:09
鍋工房 ☆☆☆☆	人間はついついパターンを探してしまうという記述は、今読んでいる「ブラックスワン」とも繋がっていて面白かったです。 ドアの問題を考えていたら、高校時代の確率の単元を思い出しました。苦手だったなぁ…			
	68-72,213-215,258-260	11P (15分)	68-72 解いてみよう	2010/08/18 07:02:58
上場亮 ☆☆☆	この世の中の事象を現代の科学で分かっていることで全部説明するためには、あまりにも知識が少ないのかもしれない。その困難を全部「たまたま」で片づけてしまっているだけなのかもしれない。 「バタフライエフェクト」と合わせて鑑賞したい本でした。			
	全部	321P (180分)		2010/08/06 15:49:26
まー ☆☆☆☆	この世のほとんどは「たまたま」に支配されている部分が大きいと思う。 この「たまたま」を大真面目に説いた本。 面白いですよ。			

	1-181	181P (150分)		2010/08/06 15:12:49

ushiushi ☆☆☆☆☆	ランダムがこの世を支配しているというのは共感できる。肩書き→能力ではないし能力→肩書きでもないと思う。それを考えたら失敗してもめげないし、成功しても謙虚でいられる。 ランダムだからといって何もしないのではなく、努力することの意義も書いてあるところがいい。 ランダムの中で努力するそのプロセスを大事にしたいし、それで運よく正規分布の良い方の外れの存在になれたら人生大成功。			
	すべて	321P (350分)		2010/08/06 12:46:36

k.k.t ☆☆☆☆☆	世の中の出来事についてのランダムネスの話。結果が分かった後に意味付けすることは簡単だが、その結果が起こる前にそれを予測するのはとても困難である。著名人のサクセスストーリーも取り上げられており、もはや、あの人が成功しているのは”たまたま”であると言うのは”たまたまでない”と言うことよりも難しいだろう。だけどこういった偶然を待ち構える努力は間違いなく必要である。			
	全部	323P (300分)	全部読んだ方がよい	2010/07/19 21:25:21

ぼるてぃー ☆☆☆☆	「動的平衡」の数学、物理バージョンという感じです。トッピクのネタはいろんなジャンルに及んでいます。 筆者の考えに共感です。成功がランダムだからこそ前向きに挑戦し続けることが大切。まわりのせいにしてあきらめるのは悲劇。			
	12-16,67-72,98-101,213-217,241-244,285-324	64P (60分)	317-321	2010/07/18 19:02:46

c nd ☆☆☆	今まで必然だ、とおもっていたことは実は偶然(たまたま)だった—- 言われてみたらそうかもしれないですね。逆に偶然だから人生面白い！ ただ、ちょっと読んでいて疲れました・・・			
	1-321	321P (200分)		2010/07/03 03:24:22

Coppet ☆☆☆	「未来思考」でもちょろっと取り上げられていた（気がする）ランダムネス。 関東圏で50年以内に地震が80%以上の確率で起きるというのは、ランダムネスを踏まえると違うらしい。 物事をランダムネスを踏まえて考えるのと、直感で考えるのどちらがその人にとって幸せなのか、判断は難しいところだと思いました。			
	1-121ページ	121P (80分)	第3章	2010/06/08 12:40:48

RKJK ☆☆☆☆☆	世の中の偶然を説いた本。実はこの本を読む直前にモンティ・ホール問題について調べていたのでこの問題が出てきたときびっくりした。 数学関係の話は東工大生なら読み飛ばしても大丈夫なところも多いが、頭では理解してても感覚的に納得できない問題を取り上げてる部分が多いのでちゃんと読み込むほうがよりこの本を楽しめると思う。 読んでいて思ったことは本を読む順番と言うのも結構大事かもしれないということ。この本を読んだ後に例えば「アイデアのちから」を読んだ場合おそらくこの本を読まずに読んだ場合と違う印象を抱く人が多いだろう。 詳しくはこの本の第6章(特にP172-181あたり)を読んでほしい。			
	1-329	329P (300分)		2010/06/01 13:00:29

	ほんの数人の☆の数を平均して良い本かどうかを競うのは無意味

ditherman ☆☆	そう主張している本 興味を引かれたタイトル達 ・出版社はベストセラーを見抜けない ・DNA判定の「本当の」精度 ・10回に4回は弱いチームが優勝する“ワールドシリーズ”			
	全部	329P (300分)	なし	2010/05/29 07:00:19

1412 ☆☆☆☆	感情で動く経済学と内容が若干かぶっていたがこっちの方が重かった。 この本を読むと成功するかどうかは運が大きく関わっているとわかる。何事も根気づよくやっていこうと思った。そうすればそのうちいい事があるかも。			
	1-321	321P (240分)		2010/05/20 12:35:41

つばくろう ☆☆	確率について詳しい説明をしている。ただ読んでいるときに頭を使わなくてはいけなく、非常に読むのに疲れる本であった。			
	1-321	321P (200分)	なし	2010/05/16 22:54:51

橘 ☆☆☆☆	タイトルから確率よりポ○モンを想像したのは、自分だけじゃないはず。 ちょっと高めの評価にしました。 目次を見て、実用的そうな最後の３章を選んだからかな？ iPodのランダム再生は、わざわざランダムっぽくなくしてる話なんかは、 「へぇ～」って面白く思えたし、 日常生活でうすうす気がついてたけど、 「やっぱ偶然なん（じゃないん）だねぇ」って確認できたし。 FREEの評価が下がり続けるのも、 前の人のコメントを見てから付けてるから、 これもランダムネスではないかも。			
	217-324（８～１０章）	105P (120分)	259ページ	2010/05/07 20:48:46

弟子 ☆☆☆	それを確率であると思い込みたいという興味が、確率を生む。 一文で表現すると、『たまたま』を科学してきたことに対して科学をした本。偶然に近い事象に対してそれが本来は偶然ではないことを示したり、逆に偶然ではないと思わせるような事象が実は偶然であったと理解させてくれる本。 ベイズの定理ではないが、この本の主題となっている『偶然の様に見えて偶然じゃない』『偶然じゃないように見えて偶然』の事象の裏に隠れているであろう『偶然のように見えてやっぱり偶然』『偶然じゃないように見えてやっぱり偶然じゃない』事象は、きっと前者の何倍もあるんだろうなと思ってしまった。そう考え始めると、この本に取り上げられている事象は『たまたま』採用されたのではなく、それが気になった人によって選択されているのだなあと痛感し、気づいたらこの本のタイトルが皮肉にしか考えられなくなった。またそう考えてみて、人間というのはいかに『やっぱり』の付く事象に気を置けないのかが気になってしまった。 結局は人間しだいなのだ。 観察する人間がいなければアインシュタインはコペンハーゲン解釈を目の敵にすることも無く、ボルンも反論されることは無かったであろうに。それでも人間の観察によって乱数表が乱数として機能するように、複雑さがある一定以上の水準に達すると人はランダムネスを認識できなくなる。皮肉にもPCの中の機械仕掛けの神様はさいころを振ることは出来ないが。			
	7-185 251-283	202P (60分)	3章	2010/05/06 21:03:58

hulk	標本空間，ベイズの定理など，近代確率論の難しい理論について誕生過程も交えながら，直感的にわかりやすく解説している．ただ，新書としては読みにくく，教科書として読めばもの足りない中途半端な本．でも，かの有名なモンティ・ホール問題についての解説は明快で気持ちよかったの			

☆☆☆	で，確率論に疎い人はぜひ.			
	pp.61-181	117P (120分)	pp.67-87	2010/04/27 12:40:09

ありす ☆☆☆	日常に潜むランダムネスが自分の人生をどう変えているのか。わたしたちは、「もしあの時違った道を選んでいたら」なんて詮無い考えを持ってしまうことがままある。 この本はランダムネスの世界に取り組んだ科学者たちの軌跡を追いかけている。数学が苦手でも分かりやすい解説だったけれど、後半の方の統計の解説はすこし難しかったかなという気が。 “たまたま”この本を手に取ったことで、わたしの人生が何か変わるかも？			
	ぜんぶ	321P (180分)	67‐72ページ	2010/04/25 13:38:32

ぼくらのコブラ ☆☆	テーマ・内容的にはいろいろな事例を踏まえ面白いが、英語を日本語にしました感が漂う・・・			
	368-112	112P (40分)		2010/04/22 17:43:15

ろしあ ☆☆☆	身近なところに潜むランダムネスについて、さまざまなエピソードを散りばめながら具体的に説明している。文章として読みやすく、面白おかしく書かれているが、時たま、ランダムネスだというには少し強引では？と思うところがあった。			
	1-91, 187-215, 252-282	149P (120分)	67-72	2010/04/19 21:35:48

TOPへ

アニマルスピリット

著者名	ジョージ・A・アカロフ&ロバート・J・シラー	発行年	2009年
出版社名	東洋経済新報社	ページ数	275ページ
値段	2,200円	ISBN	978-4492313985
コメント	なぜ？ にしっかり答えてくれる本は、すがすがしい。 たとえば、失業者って、なぜ出るの？ 需要と供給モデルで考えれば、働きたい人が多ければ賃金が下がるはずだから、仕事にあぶれる人は出ないはずだよね。 そんな「なぜ？」の８連発。答えられるようになってください。 ちょっとカタめなので、経済学初心者さんは、2-3冊、ほかの経済本で「歯ならし」をしてからどうぞ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ushiushi ☆☆☆	難しいらしいけど手に取ってみた。 結果、お前にはまだ早い！状態 出直してきます			
	1-76	76P (100分)		2010/08/06 12:36:14
ぼるてぃー ☆☆☆	自分がこれまでに読んだきた本、「貧困大国アメリカ」とか、金本位制の話とか、その他の経済系の内容をマクロの視点で扱っております。 この本の味が分かるためには、なにかしらの「あ、読んだことある」体験が必要です。別に、ちゃんとマクロ経済学の教科書を読んでいる必要はないと思います。 今までの知識が有機的につなげていくための本。本を沢山読んでいくことで生まれる効果を実感しました。			
	序文3-13,1-161	171P (120分)	147-161	2010/07/27 18:42:54
おれ ☆☆	題名に引かれて読んでみたが、徐々に難しくなり正直よく分からない印象。おそらく基礎知識がなさすぎた。			
	1-109p	109P (100分)	13-24	2010/07/19 17:12:40
g2oma	序文で政府の役割を育児書に合わせて話してくれて分かりやすかった。			

☆☆☆	序文、111-161	60P (100分)	148	2010/07/05 11:30:23

ditherman ☆	第II部だけ読んでも勉強になる．経済を知らなくても． 個人的には13章，米国黒人の二極化についての説明が良かった． “悪い手札を配られた”黒人の中でも米大統領や中産階級もいれば，収監中の80万人もいる． 成功しなかった人々はなぜそうなったかが興味深い．			
	全部	275P (300分)	II部	2010/06/29 00:06:03

hulk ☆☆☆☆	時間がなかったので少ししか読んでいないのですが… いわゆる人間の不合理性が株式市場のあり得ない変動を生んでいると…. 「確率変動」で消化していた部分を「不合理性」のモデル化により説明できればいいなぁと思いました．			
	pp.199-224	26P (15分)	pp.199-224	2010/06/22 13:12:40

ろしあ ☆☆☆	行動経済学的な知見をマクロ経済に当てはめようと試みているのか。 ただ、問題にしている話題(なぜ経済は不況に陥るのかなど)はあまり目新しいものとは思えなかった。 ただ、筆者が分類しているアニマルスピリットの"物語"は個人的に面白かった。			
	1-10,75-109, 269-278	53P (60分)	75-78	2010/06/21 01:09:40

江戸川 ☆☆☆☆	時間がなくて途中までしか読めなかった本。 ちらっと見た訳者あとがきにもあったけれども、 経済の学んでいる人が読むといいんだろうなという本。 暇ができたらもう一回通して読もう。そういう本です。			
	-138	130P (120分)		2010/06/11 11:58:38

ばっは ☆☆☆	勉強にはなるんじゃないだろうか、というのがこの本を読んだ感想だ。本から来る筆者のメッセージは伝わってこない。しかし、知識としてもっともなことは書いてある。 まぁ勉強にはなるよ。 この本の目次を見てその現象がどうして起こるのかに興味があればこの本はあなたに答えをくれると思います。			
	147-161	15P (20分)	150	2010/06/09 19:21:19

hk ☆☆☆☆	経済学をあまり勉強したことのない私だったが、考えさせられることがたくさんある本であった。 質問と回答という形で進められる2章は、現実の問題に照らし合わせて考えられるので、興味深く読むことができた。しかし、やはり難しくて知識が足りないと思い場面もあった。			
	1-36,111-161	86P (40分)	1-36	2010/05/25 13:03:03

まー ☆☆☆☆	経済学の知識を要する本ですが、読み終わった時に得られる知識、考え方はかなり有益です。 いままで何故？っと思っていた部分に答えてくれる本です。 日本経済についても、金融危機とその対策について述べられているので、その部分だけ読んでみるのもいいと思います。			
	1-275	275P (300分)	129-145	2010/05/18 12:51:21

Unknown ☆☆☆☆	「人間は合理的になりきれないバカ」 まさしくこれを説明しているのが本書である。 著者は、従来の経済学の根幹である合理性について批判的な立場ではあるが、従来の経済学が有効であることも認めているので、安心して経済の勉強を続けてください（笑） 経済学を勉強している人は、必ず読んでほしい一冊。 時間がなくて、途中までになってしまったのが残念でならない。 なお、最低でも学部レベルのマクロの知識がないと、この本のよさはわからないだろう。			
	1-186,269-278	196P (100分)	あとがき(269-278)	2010/05/18 01:16:50

k.k.t ☆	ノーベル経済学賞を取った著者が書いている本なので期待していた分、残念。1つ目として歴史について振り返る部分が多すぎて結局何が言いたいのかがよくわからない。そして2つ目に言い回しや専門用語が難しく理解しにくい。なのであまりお勧めではありません。			
	全部	267P (200分)	第14章	2010/05/07 14:47:18

DAIKINエアコン ☆☆	近代経済の知識と、興味が人並み以上にある人でないと楽しめないという印象です。 近代経済の遥動をアニマルスピリッツという概念を導入して紐解いていく・・・という本題に入る前が長すぎる上に知らない単語もぽんぽん出てきて挫折しました・・（TへT)/ｼ			
	1-105	105P (180分)	特になし	2010/04/21 01:00:39

TOPへ

人でなしの経済理論

著者名	ハロルド・ウィンター	発行年	2009年
出版社名	バジリコ	ページ数	199ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4862381323
コメント	この世に正義なんてないのさ、あるのはトレードオフ、こっちよりあっちのほうが「相対的にマシ」という程度の夢も希望もない選択肢だけなのさ。ふんっ。 正義感あふれる若者スピリットを逆撫でしまくりの挑戦状、受けて立ってみてください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
yuigawa ☆☆☆	トレードオフという概念に関してはふむふむなるほど、と思う節もあったしきちんと学んで吸収したいと思ったものの、全体的に本書の語り口になじめず。 「なんだかそれはちょっとおかしい論理じゃない？」というモヤモヤ感が募り、結局仲良くなれないなぁという感じでギブアップしてしまった。心に余裕があるときなら大丈夫だったかな。 エイズ検査を取り上げたあたりなどには好奇心をそそられた。			
	5-78	73P (45分)	好きなトピックのところを	2010/08/13 04:58:39
Coppet ☆☆☆	最初の方は著者の言い回しにイラッと来る感じ（訳のせい？）だが、読み進めていくうちに、あえてそんな調子で言っているのだろうなあと思った。 冒頭に述べられているように、何かを主張している本というわけではなく、トレードオフの色々な例を紹介しているといった印象。 つまみ食いをするのが良い読み方なのだろうと思った。			
	5-144	140P (120分)	27－43ページ、6章とか	2010/08/10 02:11:00
たざわ ☆	やっぱりよくわからない経済学			
	27-61	34P (30分)		2010/06/26 02:12:59
hulk ☆☆☆	こんなこと言うから経済学は「性格が悪くなる学問」という烙印を押されるのですよ. 本書では，社会制度の徳ではなく，得について議論が進められているように感じた．経済学が社会にとって最適とはどんな状態か，について議論が進められ，最適であることの道徳的価値は一切不問とされる特徴の結果ではなかろうか.			

	5章，6章	57P (30分)	132-133	2010/06/08 12:40:04

ditherman ☆	・文章中に所々ウィンターが講義で生徒に対して言うジョークが面白い．翻訳書なのでユーモアが薄れているのがおしい． 人命の価値に関する例題を出して＄0と答えた生徒に航空機のパイロットだけはならないでと頼む様子は，リアルに想像するとにやける．（経済学部の生徒なのになぜパイロット？と思ったりもしたが・・・） ・「はじめに」で母ちゃんに経済の講義で教えたことを言う話は，もしジョークとして入れているなら，“ツカミ”になってない． ・もう少しましな表紙のデザインはなかったの？ ・ページ番号の振り方が特殊			
	全部	213P (200分)	なし	2010/05/29 07:26:16

上場亮 ☆☆	正直つまらなっかたです。読んでて「そんな細かいこと言うなよー」っていう気持ちになりました。			
	全部	213P (180分)	６、114-144	2010/05/25 12:55:16

Unknown ☆☆☆☆	人でなしというのは、言いすぎな気が・・・。 臓器売買市場など、確かに非人道的なものを取り上げているが、それは、あくまで経済学の考え方をわかりやすく教えるためのものであり、この本自体が人でなしなわけではない。 統計・経済の本当に基本的な考え方を知りたい人向け。			
	5-61,188-201	71P (30分)		2010/04/27 10:40:52

弟子 ☆☆☆	世界を回すのに必要なのは、理論ではなくルールである。 類にもれず経済学によって社会あるいは世界の在り方を覗こうとする本。この授業には腐るほどある（実際毎期に何冊も腐る）のでこの手の本には困らない。可能な限り数式や図を排した文章オンリーの語り方は、経済学を学んでいない人間には聞こえがよいのであろうが、少しでも経済学を学んでいるとやはり違和感を感じずにはいられない。金銭に対する個人の効用曲線の形状を仮定しないまま金銭に対する価値を決定するのはやはりどうかと思ってみたり。 ただ、この本がほかの経済学類の本と比較して画期的だと思ったのは、最終的な結論の終着に理論ではなく法的な内容を多分に含んでいることがあげられる。結局理論がどうであれ、最高裁の判決こそが最も影響力を持ち、最終的にはそれに従わざるを得ないという点において妙にリアルな感じがした。 内容は古典的な分野よりは、例えば音楽などの海賊コピーなど、よりセンシティブな個所を扱っているように思える。章ごとに内容がきっちり分かれているので濫読に適していると思われ、自称文系という方にはぜひ進めてみたい。			
	4-85 164-178	97P (30分)	第3章、第4章	2010/04/20 12:36:36

つばくろう ☆☆☆	人命の価値、臓器売買、著作権問題、医薬品と特許、喫煙、製品の安全性などの問題をどちらが正しいか、間違っているかではなくどちらが得かという観点から考察している。 一般的には道徳的な判断や心情的に配慮がされる問題を費用と便益のみを考え議論しているので、製品の安全性を上げるのに資金を投じるより事故が起きた際に損害賠償を払った方が得といった結論が導き出される。 それぞれの例が面白く、わかりやすい本である。			
	1-199ページ	199P (150分)	第一章	2010/04/14 21:33:55

ＴＯＰへ

実践行動経済学

著者名	リチャード・セイラーキャス・サンスティーン	発行年	2009年
出版社名	日経BP社	ページ数	370ページ
値段	2,200円	ISBN	978-4822247478
コメント	キーワードはNudge（ナッジ）。ちょっとしたお節介ってとこかな。 行動経済学の本って、ニンゲンってアホだねぇ、ひっひっひっと貧乏神さんが揉み手してるみたいな意地悪さがツキモノなのだけれど、この本は違います。敢然と問題解決型。アホニンゲンがしあわせに暮らすにはどんな制度設計をすればよいのか。いろんなケースに具体的な処方箋が示されます。 結婚の民営化、ってどうです、お兄さん？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
みぃたん ☆☆☆☆	「経済は行動で動く」を読んだので、その復習になりました。 こちらにしか書いてないこともありましたが、私は「経済は行動で動く」のほうが楽しく読めました。 この本に、ダイエット成功の為の究極的な方法が書いてあります。			
	1-88	88P (100分)	79後半	2010/06/24 09:21:51
ばっは ☆☆☆	最初に読んだパートがあまりにつまらなく本を閉じて感想を書こうとしたら魔女コメに面白そうなパートがあり再度開く。そのおかげで☆一つ追加。 しかし、全体的に主張が弱い本なので何が言いたいかいまいちピンとこない。 結婚を民営化したらいいって、前から疑問だけど本当にこの人と一緒にいたいと心から思っているなら制度上のものなんていらないのでは？？？なぜ彼らはあんなに抗議するのかわからん？やはり金狙いか？			
	121-134，309-328	34P (30分)	結婚パート	2010/06/22 11:24:45
ボム ☆☆	好きな人がお勧めだよってゆうので読んでみましたが、あまりおもしろくありませんでした。 ナッジとかパターナリズムとかカタカナがいっぱいでバカな私には読むのに時間がかかりました。 でも例をあげている内容は分かりやすかったです。			
	1-134	134P (120分)		2010/05/31 21:52:16

TOPへ

行動経済学

著者名	依田高典	発行年	2010年
出版社名	中公新書	ページ数	239ページ
値段	819円	ISBN	978-4121020413
コメント	ちょっとカタめの入門書。 コンパクトな説明は類書のほうが達者かもしれない。でも、153ページからのアディクションの話で、喫煙者と非喫煙者では、どんなふうに時間選好のとらえかたが違うのかをしっかり実験結果から炙り出してくるところは、結論は常識的だけれど、そのプロセスが興味深かった。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
まー ☆☆	行動経済学に興味を持って読んでみたが、かなりやる気のある人でないと続かなそう。 読んで楽しめる人にはお勧めです。			
	1-46	46P (60分)	特になし	2010/08/06 14:53:05
富士駿河 ☆☆☆☆	確かに堅かった。難しい数式の部分は軽く読んだ方が良かったかもしれない。一方で、他の文系科目で学んだ知識（ゲーム理論、心理学等）や考えがでてくると、気になって深く読もうとする。 人間の感情を数式で表す、という果てしない挑戦に対して、今まで「結局無理ではないか」といった虚無主義が先行してしまっていた。従来の経済理論を現実に合わせて修正する作業は終わりが無いが、その終わりの無さに少しながら興味を持てた気がする。			
	全部	246P (130分)	192-239ページ	2010/07/26 05:56:26
yuigawa ☆☆☆☆	飛ばし読みしては戻って結局読み直したり、同じところを数回ぐるぐる読み回したりと非常に効率の悪い読み方をしてしまった。立ち読みには向かない書物だと思う。 しかしながら、この手の領域に興味を覚えるのを感じた。しっかりした入門書として手元に置いて、大事に読み解きたい一冊かも。 「人間は見たいものを見る。必然的に誤りを起こす」この一文が強く印象に残った。自分を知るためにも、他者の理解を必要とするときにも忘れてはいけない概念だと思う。 専門用語や定理が散りばめられているし、全てを理解できたわけではないけどそれほど大きな弊害にはならなかった…と思う。エネルギーは必要だったけれど。			
	1-239	239P (280分)	30-45 146-150	2010/07/19 00:34:11
つばくろう ☆☆☆	今大学で習っているミクロ経済学やゲーム理論の話が出てきて勉強になる本であった。しかし途中から数式が多くなり読むのに疲れてしまった。			

	1-239	239P (220分)	３章	2010/07/06 21:45:31

ボム ☆☆☆	各章の最初の序章みたいなページを読むとおもしろそうっと思って読み始めて、最初の導入の「例題」はいいのですが、だんだん数式や確立での説明が始まると頭を使うので疲れます。 行動経済学２冊目ですが、前の実践行動経済学よりは分かりやすいです。 リンダ問題は、日常の人間関係で使えるのかな？ あまり人を疑ってはいけないけど、信じ過ぎてもいけない。。。 難しいところですね。			
	1-36,146-190	80P (100分)	23-30	2010/06/29 12:27:20

rs ☆☆☆☆	確率の発展の歴史が興味深かった。4ページに書かれているルビンの壺は現物の写真があり、本当に顔と壺の両方が見えるのがすごいと思った（あまり本の内容と関係ないが）			
	全部	239P (120分)	4	2010/05/21 18:52:59

ピアノはじめました。 ☆☆☆☆☆	行動経済学に初めて触れた自分にとっては、勉強になることばかりでした。特に、ゲーム理論のナッシュ均衡で、感情を取り入れた時の変化が面白かった。 様々な例から、感情がいかに人間の合理性を歪ませるのかが分かる。というか、合理性って何だろうと考えさせられる。			
	全部	239P (200分)	165,183-184,202-209	2010/05/11 01:14:49

海老ちゃん ☆☆	アディクションの研究については面白かったです。 ただ読んでいて新しい発見とか感動とかが無いんですよね。それもあって早く読むことはできるんですが。 結局は経済本だからしょうがないのかなぁ。			
	1-79, 145-190	125P (100分)	14-18	2010/04/27 13:10:36

弟子 ☆☆☆☆☆	かくも複雑である人間の心というブラックボックスな存在をビジブルな数式に置き換えることの滑稽さ。 どのように人間の効用を経済学で表現できるかどうかの付き詰め方は感嘆を通り越して滑稽ささえ感じる。内容も単純な経済学の応用から、脳科学や精神物理学の応用など多岐にわたり、scienceという学問の分割に一石を投じている内容が示されている。ただ、どうしても取り扱う内容から決定的な定理が導けるわけではなく、あくまで実験の結果の棄却検定でしか事象を語れない点は経済学というよりは統計学の宿命というべきか。 分野ごとに分かれているので、好きな章から読める。濫読向きの本といえる。			
	all	239P (60分)	第1章	2010/04/20 11:10:32

TOPへ

予想どおりに不合理

著者名	ダン・アリエリー	発行年	2008年
出版社名	早川書房	ページ数	314ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4152089793
コメント	小ネタのオンパレード、あたかも回転寿司の如し。 オレってどうしていつも締め切り直前にしか始められないんだろ、とか、ダメカレだからさっさと振っちゃいたいのに、なんで見切りを付けられないのかしらん、とか、日頃のあなたの不合理行動を実験ですっきり証明してみせます。 なんだ、みんなそうなんだと安心できるかもしれないけれど、だからって問題を解決してくれるわけじゃないのね。 そこが行動経済学のウィーク・ポイントと見た！		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
kyk ☆☆☆☆	人間って単純で、だからこそ非合理だ。 それにしても、私たちがなんとなく無意識に行ってしまう 行動にこんなにこだわって実験をする人がいるんだということに 驚いた。			
	全部	337P (120分)	13章	2010/08/18 23:31:50
g2oma ☆☆☆	当然そうだろうと思ったことが不合理と書いてあるタイトルの本を読んでいると当然が不合理にだんだん変わっていく。			
	83-191	108P (100分)		2010/07/12 05:59:28
an ☆☆☆☆	面白そうな章をいくつか見てみたが、１章がなんだかんだで一番面白かった。 選択肢の作り方、並べ方の大切さがよくわかった。 それに自分自身が影響されていることもｗｗ 選ぶ側としてはどうしようもないんですかね。			
	１章、３章、８章、９章、１０章	113P (70分)	１章	2010/07/06 12:05:00
	確かに比較対象のあるものを選ぶかも。			

c nd ☆☆☆	面白そうでしたが時間がなかったので少しだけ。			
	1－42	42P (20分)		2010/06/28 15:48:20

sky ☆☆☆☆	この講義が始まってから行動経済学の本を何冊か読んだが、人間ってマクロで見たら結構単純だよね、って思えてくる。これらの本に出てくる結果をそのまま個人に適用するのは無茶があるけど、集団を相手にするなら（その行動が合理的であれ不合理的であれ）予想できるかも、と思わされる。 読んだ部分に関しては自分の経験則と大体一致しているように見えた。中古のゲームを買いに行ったら新品とあまり値段が変わらず結局新品のものを買ったり、明らかな地雷の品物にあえて挑戦したりね。13章のビールの話はまんま自分のこと。地雷臭がするものっておいしいじゃない、キャラ的に。 この本の帯にノーベル賞受賞者も絶賛！とあり、そこに二人のダニエルさんの名前が載っている。多分この直後にまったく別のダニエルさんを紹介されても、きっと（この人は経済が得意なのかも？）と一瞬考えちゃうだろうね。先入観って怖い怖い。			
	9-49,104-175,211-233,305-325	153P (150分)	1章	2010/06/21 21:45:10

ushiushi ☆☆☆☆☆	人間は不合理なことをするから面白い。答えがすべてわかってしまっていたら生きている意味はなくなってしまう。人間の不合理さを明らかにしたことがすでに人間の進歩。 不合理さを割るのではなく、自分の不合理さを理解してさらに前に進んでいくという筆者の姿勢は読んでいて快かった。			
	すべて	314P (350分)		2010/06/15 18:32:49

atom ☆☆☆☆	人間の行動は、理性で語ることはできず、もっと感情的なもので動いていくということを学んだ。			
	154-175	22P (30分)		2010/06/08 08:48:40

ばっは ☆☆☆☆	なぜ真面目なコメントが多いのだろうか？ アンケートのところに全てがある。10パーセントが20パーセントになって二倍です。なんていうのは何だそりゃっていう感じかもしれないが、最初っから10パーセントもいたことに驚いた。 私はまだ正常です。コメント読んでわけがわからない人は立ち読みポイントだけでもチェックすることを。			
	104-153	50P (50分)	152-153	2010/06/08 06:21:21

あるみ ☆☆☆☆	若干胡散臭い部分もあるけれど、全体として非常に面白かった。 納得できる例が多々あって、身につまされます。 何より全編通して、著者の目線が「自分の研究で世の中をよくしたい」という点に定まっているので、気持ちよく読めました。 「経済学＝性格の悪くなる学問」は必ずしも真実ではなさそう（笑）			
	all	337P (180分)		2010/06/01 05:40:43

たざわ ☆☆	無料のビールを配られて他の人が次々にビールの種類を選んでいったら、残っている種類から選んでしまうかも。			
	305-322	18P (20分)		2010/06/01 01:46:38

B4たかし	「FREE」も読んだのだけれど，不合理なことって「無料！」が関わってくると起こりやすいのかな，と.

☆☆☆☆	104-137	34P (120分)		2010/05/31 17:14:35

Coppet ☆☆☆☆	「予想どおりに不合理」 まずこのタイトルがいい！予想どおりに不合理ってなんかおかしくない？と思って興味をひかれました。 内容はまさに予想されるとおり不合理な行動をとってしまうことについて、何故そのような行動をとってしまうのかということ。 個人的に読んでいて一番説得力があったのは立ち読みポイントにもあるように1章の相対性について。 おとり効果なんかは当にそのとおりだといった印象を受けた。 それ以外は一部、論理の展開が唐突だと思う部分もあったので☆1つ減点で☆4つ。 ある環境で生じる現象を他の環境で再現性を期待するのはなかなか難しいものがあると思う。 「経済は感情で動く」と同時進行で読んでいたので、より理解が深まったような気がする。 こういう本を読む時は同系統の本を同時に読んでいくと、比較が出来てより正確な情報を手にすることが出来るかも！			
	9-175	167P (150分)	23-49ページ	2010/05/25 00:35:24

WHISKYMAN ☆☆☆☆☆	人は何らかの判断を迫られたとき、合理的に考え、最善の選択をしたいと考える。しかし、それでは常に正しい選択がなされているかというと実はそうでもなく、しかもそれは一般的に賢いとされている人にも同様に起こりうる。すなわち多くの人は合理的ではない、不合理な選択をしてしまうのであり、そのメカニズムを解明しようとするのが行動経済学である。本書は、多くの実例を挙げることで、我々がいかに合理的に行動できていないかをわかりやすく解説してくれている。なるほど確かに！と思わずうなってしまうこともしばしば…人生における成功の秘訣は意外とこんなところに隠れているのかもしれない。この本をきっかけにして、今後の自分の行動を考え直してみようかなと思った。			
	全部	325P (300分)		2010/05/17 10:26:09

忍者 ☆☆☆☆	人間は不合理な生き物である。 （4月） 学期末にまでに2000ページ？ 1日20ページで大丈夫じゃん、ちょろいちょろい。 （7月） まだ2ページしか読んでねぇよ、ヤバイ！！！			
	全部	321P (300分)	６章	2010/05/12 04:28:34

mnts ☆☆☆	身近な不合理行動について実験の結果から解説をしてもらえます。 知っておけば損をせずにすむかもしれないというようなことが色々書いてあるので参考になります。 ただなんとなくこの実験は本当に妥当なのかな？と思ったりも。			
	50-144	95P (90分)		2010/05/11 15:20:00

マシュ ☆☆☆☆	経済学を学んでる自分からすると、この本に書かれているように、人間がこんなにも不合理な行動をするというのは驚いてショックでした。 ただ筆者も言っているように、その不意合理な行動というのは予測出来るものが多く、そういった状況になった時にどのような不合理な行動が考えられるのかを思い出せば、今後自分にとってより良い選択が出来ると思うので、良い事を知ったなと思いました。			
	全部	314P (250分)	154-175	2010/05/11 10:28:25

ふり太郎 ☆☆☆	言われてみれば確かに…と、納得させられます。経済学を行動の観点から焦点を当てていくつも実験を行っていますが、正直、実験が多すぎて、それぞれの実験の印象が薄まってしまった感じは受けました。ただこの本を読んで、合理的に行動するための分別が身に付いた気がしました。			
	9-322ページ	313P (180分)	156-162ページ	2010/04/28 12:30:45

スズキ ☆☆☆☆	著者の鋭い観察力がうかがえる本です． よく考えれば不合理なことが明らかにわかるのに，人間はしばしば自分から，その不合理な行動をとってしまうことがあります．たとえば「無料」の文字に騙されて買いたくないものまで買ったり，興奮しているときに（本では性的興奮が取り上げられています）普段の自分なら考えられないような行動をとってしまうことはありませんか？ この本は，そのような日々ついついとってしまう不合理な行動をわかりやすい実験例をあげて解説してあります． 最近騙された経験がある方は是非読むことをお勧めします			
	83-191	109P (60分)	83-103	2010/04/18 18:04:57

TOPへ

経済は感情で動く

著者名	マッテオ・モッテルリーニ	発行年	2008年
出版社名	紀伊國屋書店	ページ数	302ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4314010474
コメント	こちらはイタリア仕込みの行動経済学。話題はほかの本ともかぶるけど、トピックごとにていねいに解説してあるのがメリット。 楽しい実験例が豊富なので、ついつい呑み会などで話したくなるけれど、度が過ぎてウザがられないように。これを「後悔回避 regret aversion」と申します。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
kyk ☆☆☆	経済学の本ではあるが、人を動かすには表現方法を考えることが大切なのだと感じた。			
	全部	302P (120分)	全部	2010/08/18 15:29:17
かーたか ☆☆	授業でもやったので大体内容を知っていたというのもあったが、「はじめに」だけ読んだらもう分かった気になってしまった。なのでこれくらいで。			
	1-50	50P (20分)		2010/08/18 13:44:47
hk ☆☆☆☆	経済学を学んだことは、ほとんどない自分であったが授業でも取りあげられていたことから興味を持って読み始めた。 経済と感情という一見相反し、関わりがないように思われることをわかりやすく説明してあり、面白かった。			
	13-136	123P (80分)		2010/08/16 19:24:37
wax ☆☆☆☆	行動経済学の本。 当たり前のことをモデル化することが重要だと感じました。 これからは感情の操作みたいなのが重要になってくるかもしれません。			
	13-314ページ	302P (180分)		2010/08/11 01:29:14
chicken-run	経済に対する考え方を一変させてくれる本 経済というのは、その長い歴史とそれに伴い発展してきた複雑な理論や数式からパッと見とり付きにくそうに見えますが、どんなに難しくこねくり回しても所詮は人のすること、理性的な理論より			

☆☆☆☆☆	も本能的な感情の方が勝ることが多く、この本はそういった事例を数多く紹介してくれます。 経済を身近な存在に感じることが出来るようになりました。			
	全部	302P (150分)		2010/08/03 10:49:28

布団が敷いてある ☆☆	具体的な問いをいくつも出してわかりやすいと思いました. ただ，こういう場面ではこういう選択が普通（多数）なんだよ．のような書き方が気に入らなかった.			
	1-136	136P (90分)	特になし	2010/07/28 18:44:16

マカロニぺんぎん ☆☆☆☆	かつて授業の資料として一部が紹介されていたため、非常に読みやすく感じられました。興味深かった個所としては、合理性のモデルにおける「三本の枝」の話。立ち読みポイントでは、実際の人間の非合理性について分かりやすく書かれています。			
	13-131	118P (120分)	88-90	2010/07/13 01:44:26

ボム ☆☆☆☆	行動経済学の本も３冊目になるのでだいぶ読みやすくなりました。３冊の中でこれが一番分かりやすいかもしれない。 しかし、あまりに行動経済学脳になって世の中のことを疑いすぎて、この本のことも疑ってしまうようになった私は、もう何を信じていいのか分からない。。			
	20-135	115P (90分)	52-59	2010/07/06 11:52:09

くま ☆☆☆☆	時間が無くてあまり読めなかったので、 自分でも買いたいと思います。			
	1-40	40P (30分)		2010/06/29 12:31:21

asce ☆☆☆☆	タクシーの運ちゃんの行動パターンが、実に興味深かった。 イタリア人の性格から起こることかもしれないから、各国で調査すると面白いと思った。性格診断的な意味で。			
	13-136(part1)	124P (100分)	教訓	2010/06/29 11:46:36

Apollo ☆☆☆☆	人間は必ずしも、というか大体の場合経済的利益から考えると合理的な選択はできない、というのが簡単なクイズと共に実例でわかりやすく説明されています。 まあ所々うーん？、と思うようなとこもあると思いますが（私もある）、人間そんな単純じゃないってことで			
	1-72,104-194,210-246	210P (120分)		2010/06/22 12:46:41

chocolate ☆☆☆☆	授業でやって興味をもったので読みました。 少ししか読んでないけどやっぱりいおもしろい。			
	1-60	60P (40分)		2010/06/15 13:07:42

	目次からつまみ食いしました。 個人的にはプライスレスよりも読みやすかった。例の登場人物も日本人になってたりして。 やってしまったことを後悔するのか、それともやらなかったことを後悔するのか…馬券を買う時にいつも考えます。 予想を直前で変えて、変えなかったほうが良かったって方がイタイ。だから私は初志貫徹（堅め）。 わかりにくいと指摘があったので補足☆（文が下手ですみません）			

akilu ☆☆☆☆	＜例＞勝ちそうだと思った馬が5頭いるとする。これを馬連ボックスで買えば10通り。一口100円でも1000円。1レースに1000円て、ちょっと買いすぎ？ （i）そこで1頭切る。4頭なら6通り600円。 前年の勝ち馬マイネルキッツをマグレだったとし、切る。 [結果]マイネルキッツが2着…1着のジャガーメイルは買ってるのに…払い戻し0円 （ii）1頭切れない！5頭買う！10通り1000円 [結果]マイネルキッツが来ない…馬券もひとつも当たってない… やっぱり去年キッツが勝ったのはマグレだったんじゃねーか！だろうと思ったよ！（怒）払い戻し0円 （i）の方がマイナス小さいけど（i）の方が悔しさ大きめです。ちなみに事実は（i）です。			
	105-111,138-155,166-178,220-228	47P (40分)	各章の「教訓」	2010/06/08 18:04:50

g2oma ☆☆☆☆	経済学はいつも数字だとおもいましたが、 確かに経済は人の心理なしには動かないですね。 いつまで自然にしたことを、このように説明していると、 悩みチャいますね！			
	13-46,247-261	47P (30分)	13-18	2010/06/01 09:41:22

橘 ☆☆☆☆	「７０％の生徒が自分にはリーダーシップの能力が平均以上にあると答え、…」 この前の「自分の役割＝ファシリテータ」と答えた人はずっと割合が低かったような… 東工大生は控えめなのかな？ｗ あえて自分にとって耳が痛いものをかいつまんでみました。 「いいことが起きた時は自分のおかげ。 悪いことが起きた時は他人・環境とかのせいにしたがる。」 「人は見たいものだけをみる。 自分を肯定する言葉を必死になって探し、 否定する言葉には耳をふさぐ」 まさに研究なんてそうしてしまいがちだったり。。。反省。			
	はじめに・10 知ってるつもり・17 理性より感情がものを言う・18 人間的な、あまりに人間的なわれわれの脳	70P (60分)	176・179ページ	2010/05/31 13:30:28

ｃnd ☆☆☆☆	授業で扱って、面白いなと思ったので読みました。 うーん確かに現実世界で常に合理的には動いてないな、と気付かされた一冊です。			
	1-246	246P (120分)		2010/05/25 12:59:57

どかべん太郎 ☆☆☆☆	自分の行動・選択がいかに不合理であったかを思い知った。 今度買い物に行くときは気をつけよう。			
	1-136	136P (80分)	教訓	2010/05/25 12:28:00

Coppet ☆☆☆☆	「はじめての行動経済学」という副題の通り、行動経済学に初めて触れる自分でもすんなりと入れたし、わかりやすかった。 様々な有名（と思われる）現象を身近な例を用いて問題形式にしている点が良い。 こんなふうに自分が行動を選択する際にどういう判断をしているのかを客観的に見ることが出来れば、もっと賢く生きられるんだろうな。 読んで損はないと思う一冊。			
	1-136ページ	136P (80分)	各「教訓」	2010/05/25 00:44:16

rs ☆☆☆☆☆	文章にあるクイズに思わず引っかかってしまうものもあれば、全然逆の行動をしてしまうこともあって、あまり納得いかない場所もありましたが、全体的には面白かったです。 特に、真中の値段を選びやすいというのは面白いと思った。			
	全部	302P (300分)		2010/05/18 19:30:02

ushiushi ☆☆☆☆☆	クイズ形式で身近な話題を取り上げていて共感できる。経済初心者でも心おきなく読める。おもしろい。 クイズにひっかけられたことを考えると、消費者側としていろいろなことでだまされているような気がしてきた。まあ今回は自分が知らないということを知ったということで良。			
	1-316	316P (350分)	137-218	2010/05/14 13:43:36

くらげ ☆☆☆☆☆	経済の本なんて生まれて初めて読んだけど、これなら私でも余裕で楽しめる！面白い！ いかに私たちが非合理的な行動をしてるか、具体的な質問形式で自覚させてくれました。 ちなみに私は305-306ページのクイズを１問間違えた。簡単な問題なのに、全問正解率は20%(ただしMITの学生は48%！)らしいですよ。お試しあれ。 各節の最後に教訓が載ってますが、どうせならもうちょっと要約に近い内容にしてほしかったな。 そしたら濫読もしやすいし。 しかし普通の経済学をやる前に行動経済学の本を読んでしまった。 こうなると普通の経済学の本を読んでも、素直に読めなさそうだ。 まとめると 行動経済学入門書×クイズ形式＝ただの蘊蓄本 ですかね。			
	1-72、137-185、219-261、300-316	181P (120分)	305-306	2010/05/12 17:28:59

ふり太郎 ☆☆☆☆	冷静であるためには感情を切り捨てた判断が必要とは言いますが、この本で、感情が結びついてなければ、記憶には結びつかず、その結果正しい判断を行うための知識にはなり得ない、ということはすごい勉強になりました。各章の最後に「教訓」としてポイントがまとめられているので、頭を整理して読んでいけます。			
	全部	314P (240分)	262-272ページ	2010/05/07 18:33:59

ぼるてぃー ☆☆☆☆	『経済は感情で動く』って普通のことですよね、ちゃんと考えれば。感情なくして人間ではないから。各トピックの最後に出てくる「教訓」が秀逸です。ここだけ読めば、全体像が掴めます。			
	262-299	38P (40分)	279	2010/04/30 17:55:25

江戸川 ☆☆☆	80冊のうち30冊読まなくてはいけない。 80冊のうち50冊は読まなくともいい。 あなたはどちらの提案に惹かれますか？ こういったクイズが多数出題されるので話のネタを探す人にはいいかも。 あとがきの認知思考テスト(上記立ち読みポイント)はぜひトライして、 あなたがマサチューセッツ工科大学の学生側か一般人側か判別して欲しいかも。			
	13-314ページ	302P (300分)	305-313ページ	2010/04/30 16:15:28

1412	パート３での、判断における理性と感情の影響を脳科学の観点から見るというのが面白かった。 全体的に広く浅くという感じで、少し物足りなかった。			

☆☆☆	1-302	302P (240分)		2010/04/28 12:17:23

つばくろう ☆☆☆☆☆	経済学では人が合理的に行動することを前提にすることが多いが、実社会では人は感情に流され合理的に行動できないことが多々ある。 そのことをたくさんの例を使って説明している。 とてもわかりやすい例で確かに自分も全然合理的に動いていないなと気づかされるとても面白い本。 「自分で稼いだ一万円と降ってわいて出たような一万円では同じ一万円でも全然使い方が違ってくる」とあるが正にその通りである。			
	1-316	316P (350分)	パート１、２	2010/04/22 23:06:55

忍者 ☆☆☆☆	身近なところから、人間は感情によって合理的でない行動をとることがしめされていたのでとても興味深かった。 保有効果、サンクコストの過大視など言葉は難しそうだが、日常おいてありふれた現象であることがわかった。 経済学は万能だ！崇めよ！とか思っている人にはいいんゃないか 実際どのように感情のバイアスを経済学に持ち込むか問題で、脳科学による研究が載せてあったが、まだまだ発展途上であると感じた。			
	すべて	316P (300分)	73-94、105-111	2010/04/20 18:37:31

みぃたん ☆☆☆☆☆	とても面白かった！ 自分が買い物するとき、どれだけ錯覚に騙されてるか、実感させられた。これからはもっとお金を大事にしていけると思います。 友人に話したくなるような面白い内容が詰まっていました。心理学や脳化学の勉強にもなり、とても興味深い内容でした。			
	全部	302P (500分)	1章	2010/04/20 09:31:22

TOPへ